



みらいの里山プロジェクト

令和8年4月

生活デザイン・工学研究所

1. 未来の里山プロジェクト



生活デザイン・工学研究所

令和3年12月に**東広島市・マツダ株式会社・株式会社博報堂**の3者で締結した
「生活価値創造に関する連携協定」に基づき、
令和4年4月に住民参加型の研究・事業企画プラットフォームとなる
「**生活デザイン・工学研究所**」を設立しました。

令和5年11月 福富支所に事務所を開設し現地活動開始

令和6年 8月 福富みらいベース(旧竹仁小学校)の整備活用がデジタル田園都市国家構想交付金対象事業に採択

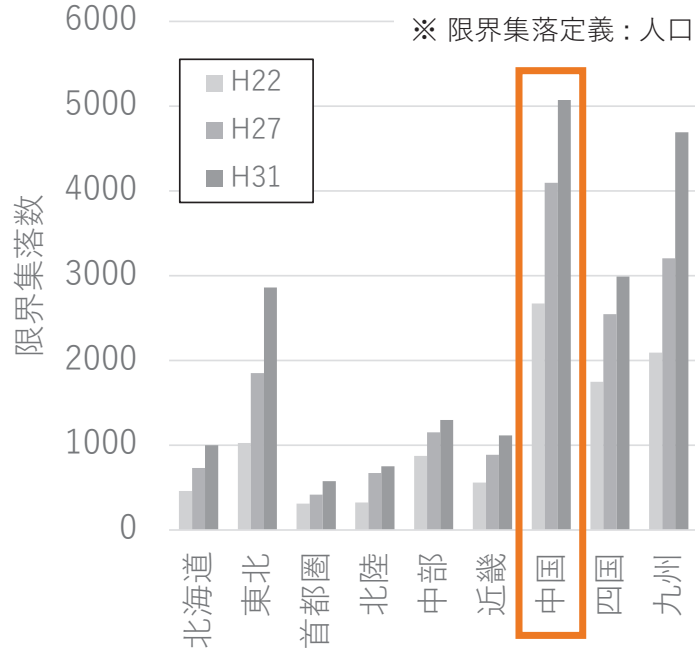
11月 里山での自然とデジタル体験プログラムをテスト運用開始

令和7年 1月 近大谷川研究室による里山のシンボル『ツリーハウス』のベースが完成

4月 『福富みらいの森』を地域に開放
里山での自然とデジタル体験プログラムを本格運用開始

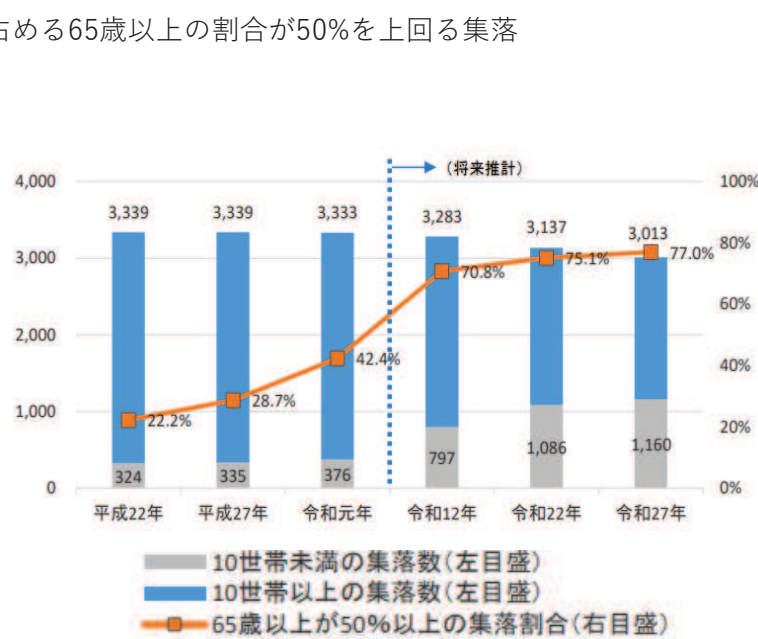
広島県の状況

全国限界集落数の推移



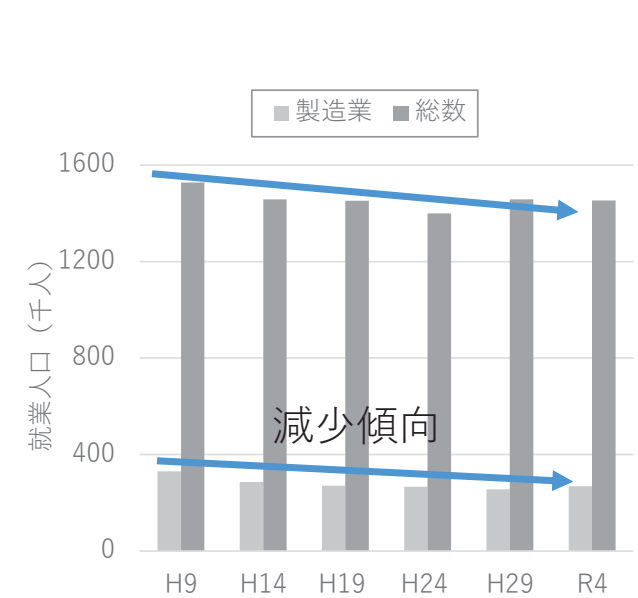
出所：令和元年度及びH27年度過疎地域等条件不利地域における集落の現況把握調査
(国土交通省、総務省)より研究所作成

広島県の中山間地域における集落数等の状況



出所：広島県集落実態調査 主な調査結果

広島県就業人口推移



出所：就業構造基本調査（総務省）より研究所作成

- 広島県は、過疎地・限界集落化が全国で最も進んでいる地域のひとつ。
- 就業人口の減少により当地域での企業活動の維持成長が困難となる。

【中山間地域が抱える社会課題】

地域内で自ら価値を生み出すことが困難になり、
外部へ価値（≡人口、対価）が流出



新たな価値の創出による 持続可能な地域づくりを

人口減・高齢化に負けず、ヒト・モノ・コトが動く活気ある社会（経済）をつくる。

自然豊かな福富地域からはじめる

福富地域の特性（=豊かな自然環境・道の駅など**集客の多い場所**・これまでの**移住の受け皿**）

を生かすために、地域で暮らす住民の発想を引き出し、

地域産業・文化の継承と広がり、サステナブルな生活・暮らし方に向けた価値を再編集して

新たな仕事・事業を創り出す「**サーキュラーエコノミー**」を実現する。

福富体験の魅力に惹かれた来訪者を増加させ、移住／2拠点居住者の獲得にも繋げていきたい。



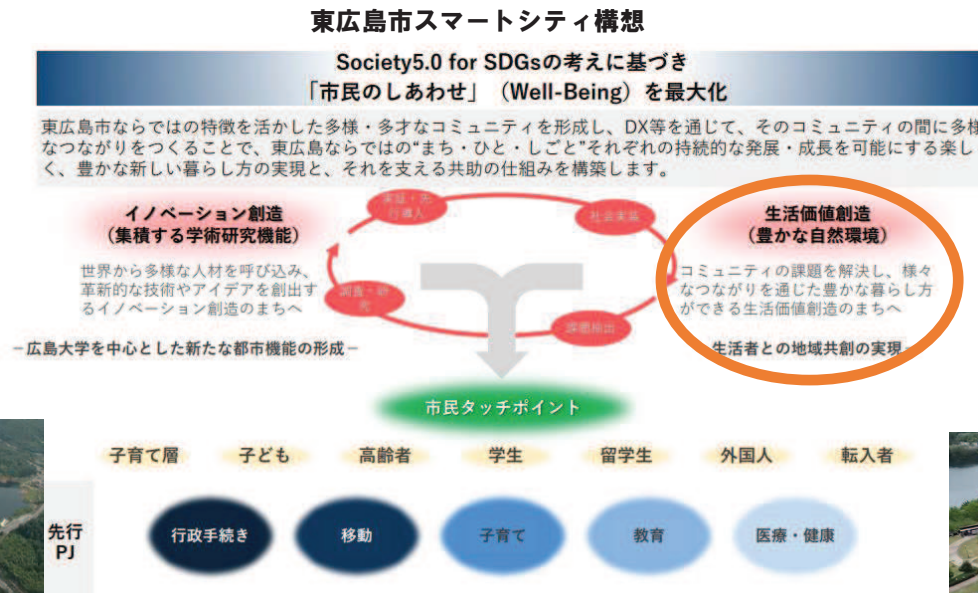
鷹ノ巣山



沼田川/造賀川



福富ダム



福富の豊かな自然と多彩な人材は
持続可能な地域づくりの資源になる



道の駅：湖畔の里

“里山”から“福富のみらい”を創る

みらいの里山プロジェクト

福富の自然（自然と資源）と**人**（知恵や経験）の新たなカタチの**共生**
想いを持った多彩な人々が自ら集い、これからの福富の里を創る

実現したいこと

みらいの里山を創る

旧竹仁小学校ファシリティ活用

フィールド
ワーク拠点

“里山チャレンジ プラットフォーム”

里山の資源を活用
特産品開発
共創パートナー連携
地域ブランド展開

生活価値
創出拠点

生活デザイン・工学研究所 “福富みらいベース”

・テクノロジー活用・研究・実証・

ANAフォレストなど地域の里山整備/活用

エネルギー・モビリティ

活動/暮らしを支える基盤インフラ

方法

森の再生「知る→使う→守る」

自然の循環と現代の暮らしの関係性再構築
(獣害対策、文化継承)
資源を活用した新しいチャレンジ

×

学び・遊びを通じた内外コミュニティ創出

子どもの学び/遊び環境 (テクノロジー、自然)
地域内外の人が楽しめる学び/余暇活動

・資金/新たな人財・新たなコンテンツ

関係人口拡大/対価獲得

活動のスパイラルアップ

サイクルを
回し続ける

結果 地域経済循環の確立



豊かで活力のある中山間地域の実現

独自の教育環境提供で人口流出抑止

新たな価値創造による経済価値の創出と循環モデル構築

里山 

里山の豊かな自然の再生・活用

子ども 

子ども達の健やかな成長

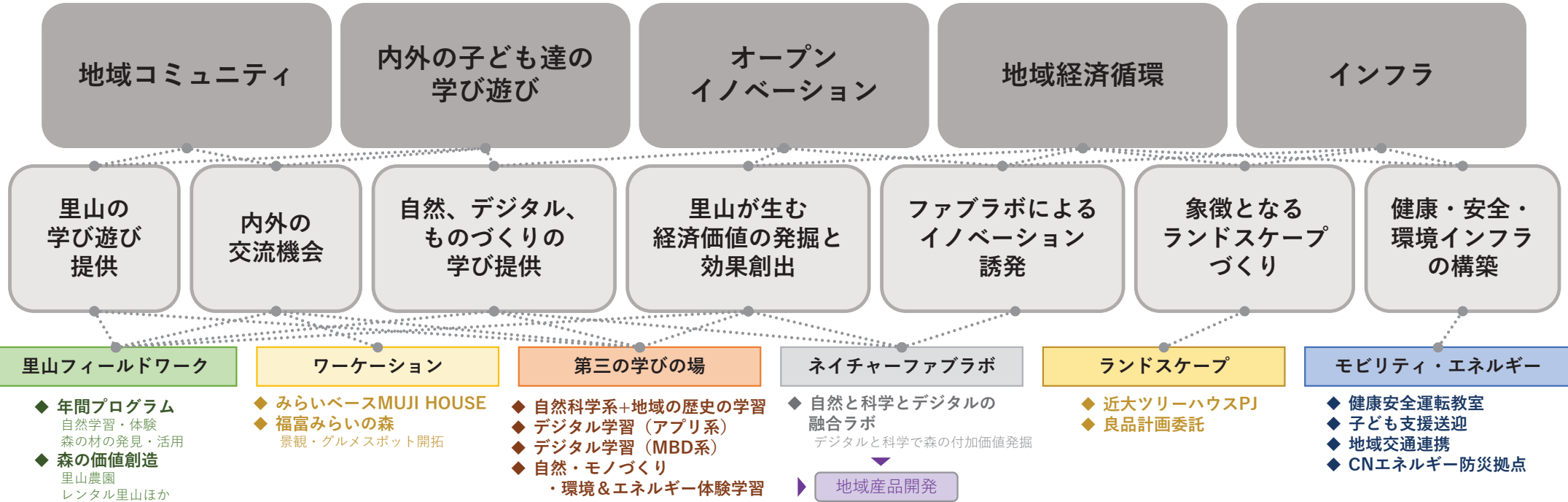
文化の継承 

ものづくり文化の継承と活性化

里山チャレンジプラットフォーム

×

福富みらいベース



2. 里山チャレンジプラットフォーム 「福富みらいの森」プロジェクト

里山チャレンジプラットフォーム

森の再生×学び・遊び

里山の暮らしの循環を知り、現代生活との違い・使い方を学び
付加価値を生み出していく



自然と共存する現代の里山暮らし

人の生活の場に近い里山の森では森の材を使うことが森を守ることにつながる

里山資源活用イベント創出

隔週整備

安心・安全に活動できる場所づくり。



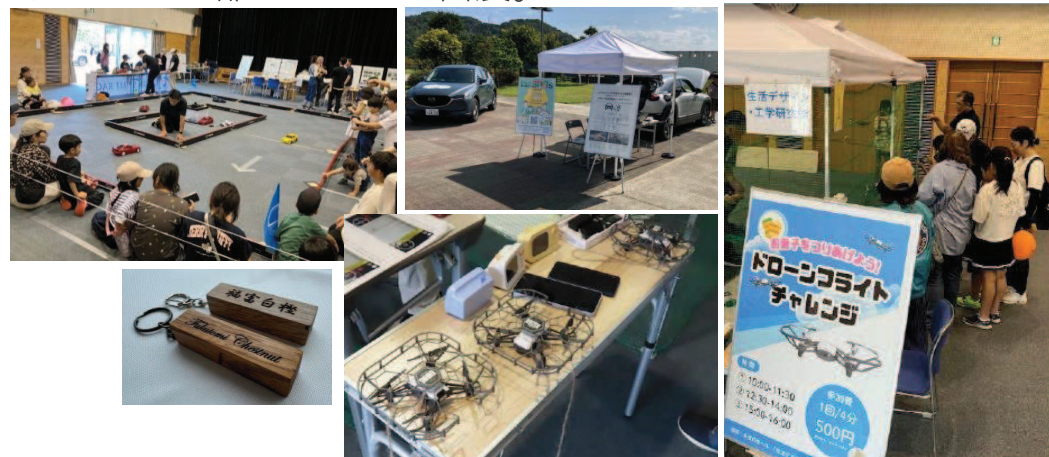
こどもエコ体験ツアー（2024年9月）

広島県が事務局をつとめる「ひろしま地球環境フォーラム」と共催。そごう広島店屋上緑地で里山の紹介、アロマウォーター作り及び樹木札作りと設置を実施。



アクアフエスタin福富への出展 （9月末or10月初旬：2023年より毎年出展）

研究所活動展示、微細藻類バイオ燃料展示に加え、トイドローン操縦体験、キーホルダーワークショップやアロマウォーター作りの実演を実施。2023年及び2024年はEV、マツダラジコン部ラジコンを出展。



有償プログラム (2024年11月～)

2024年11月より半年を1クールとして小学生向けに里山探索とデジタル機材等の活用を組み合わせた有償プログラムを実施中。
2度目の秋冬版開始に合わせて、内容を高度化した「探検隊」を2025年11月より開始。

福富の森 調査隊 メンバー大募集!

「福富の森」を調査してくれる小学生を募集します!
6回の調査会を通して、学んだり、体験したりしながら、福富の森の魅力を調査しませんか?

対象 小学3年生～6年生
募集人数 各回10人 (定員に達し次第締め切り)
時間 各回13:00-16:00 (13:00福富支所集合)
申込方法 各回ごとに専用二次元コードから申し込みください

参加費 1人1回 1,000円 (保険料)

第1回 福富の森を探検しよう!
2024.11/4
福富の森の魅力がたっぷり! ネイチャーゲームを楽しみながら、森を探検しよう!

第2回 動物・植物の紹介Webサイトを作ろう!
2024.11/24
福富の森で気になる場所の植物を調べて、パソコンで紹介Webサイトをつくろう!

第3回 動物・植物の紹介プレートを作ろう!
2024.12/14
レーザーカッターを使って、木の板に好きな場所や植物を紹介するプレートをつくろう!

第4回 森の香りを研究しよう!
2025.1/18
いい匂いのする葉や水を探しに行こう! アロマウォーターを作ってみよう!

第5回 昔の福富の森を学ぼう!
2025.2/15
昔の人のくらしを学ぼう! 地図をもとに1500年前の古地図を探そう!

第6回 福富の森の地図をつくろう!
2025.3/22
デジタル機器を使って福富の森を地図に再現。今まで調査してきた森の魅力をたくさん紹介しよう!

主催: 生活デザイン・工学研究所
お問い合わせ (担当: 松岡)
070-2355-6344
morioka.sh@mazda.co.jp

福富の森 調査隊 2期生 メンバー大募集!

「福富の森」を調査してくれる小学生を募集します!
6回の調査会を通して、学んだり、体験したりしながら、福富の森の魅力を調査しませんか?

対象 小学3年生～6年生
募集人数 各回各日10名
時間 各回13:00-16:00 (福富支所集合)
申込方法 各回ごとに専用二次元コードから申し込みください

参加費 1人1回 1,000円 (保険料)

第1回 福富の森を探検しよう!
2025.4/19(土)・20(日)
福富の森の魅力がたっぷり! ネイチャーゲームを楽しみながら、森を探検しよう!

第2回 森の魅力の紹介Webサイトを作ろう!
2025.5/24(土)・25(日)
福富の森で気になる場所の植物を調べて、パソコンで紹介Webサイトをつくろう!

第3回 森の魅力の紹介プレートを作ろう!
2025.6/14(土)・15(日)
レーザーカッターを使って、木の板に好きな場所や植物を紹介するプレートをつくろう!

第4回 森の香りを研究しよう!
2025.7/19(土)・20(日)
いい匂いのする葉や水を探しに行こう! アロマウォーターを作ってみよう!

第5回 ものつくりに挑戦しよう!
2025.8/23(土)・24(日)
福富の森で気になる場所の植物を調べて、パソコンで紹介Webサイトをつくろう!

第6回 福富の森の地図をつくろう!
2025.9/27(土)・28(日)
デジタル機器を使って福富の森を地図に再現。今まで調査してきた森の魅力をたくさん紹介しよう!

主催: 生活デザイン・工学研究所
お問い合わせ (担当: 松岡)
070-2355-6344
morioka.sh@mazda.co.jp

2025年度 福富の森調査隊 新規メンバー大募集!

「福富の森」を調査してくれる小学生を募集します!
6回の調査会を通して、学んだり、体験したりしながら、福富の森の魅力を調査しませんか?

対象 小学3年生～6年生
募集人数 各回 20名程度
時間 各回13:30-16:30
申込方法 各回ごとに専用二次元コードから申込み

参加費 1人1回 1,000円 (保険料)

第1回 福富の森を探検しよう!
2025.10/25(土)
福富の森の魅力がたっぷり! ネイチャーゲームを楽しみながら、森を探検しよう!

第2回 森の魅力の紹介Webサイトを作ろう!
2025.11/15(土)
福富の森で気になる場所の植物を調べて、パソコンで紹介Webサイトをつくろう!

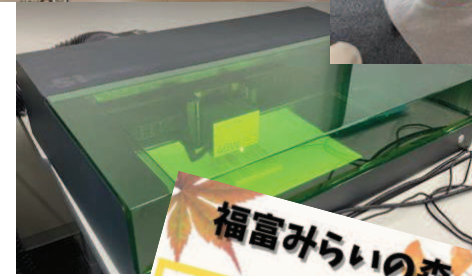
第3回 森の魅力の紹介プレートを作ろう!
2025.12/20(土)
レーザーカッターを使って、木の板に好きな場所や植物を紹介するプレートをつくろう!

第4回 森の香りを研究しよう!
2026.1/17(土)
いい匂いのする葉や水を探しに行こう! アロマウォーターを作ってみよう!

第5回 福富の森を学ぼう!
2026.2/14(土)
地図をもとに1500年前の古地図を探そう!

第6回 福富の森の地図をつくろう!
2026.3/20(金)
デジタル機器を使って福富の森を地図に再現。今まで調査してきた森の魅力をたくさん紹介しよう!

主催: 生活デザイン・工学研究所
お問い合わせ (担当: 松岡)
070-2355-6273
matsuoka.kot@mazda.co.jp



福富みらいの森 探検隊 新設 イベント内容

展覧台(みはらし広場)から城跡までの新しい道を発見します
みんなでこれからやってみたいことを話し合います

対象 これまでに「福富の森調査隊」に参加したことがある小学生・中学生 (学年不問)
※保護者の方もご希望があれば参加可能です

募集人数 15名程度 (先着順)

日時 11月22日(土) 13:30～16:30

集合場所 東広島市役所福富支所

申込方法 下の二次元コードから申込み

申込期間 11月11日(火)

参加費 100円(保険料)

主催: 生活デザイン・工学研究所
お問い合わせ (担当: 松岡)
070-2355-6273
tsu(matsuoka.kot@mazda.co.jp)



近大研究室×ANA Forest

里山ランドスケープ

ツリーハウス企画 (2024年4月～)

里山の自然とアーキテクチャーの融合を研究する「里山ランドスケープ」の最初のプロジェクトとして「ツリーハウス企画」を近大谷川研究室の皆さまと共に2024年4月にキックオフ。



1. ツリーハウス第1期完成
2. 敷地調査の様子
3. 研究室での検討風景
4. ツリーハウス模型
5. 模型での検討風景



福富みらいの森 森びらき

情報発信

2025年4月19日

高垣市長に参加いただき地域に向けて福富みらいの森を紹介。80名近い参集を得た。



今後の展開

里山農園

○里山を開墾し農園を開設

- ・ワークショップで活用する植物の栽培
- ・地域産品の原材料の栽培
- ・農園体験

企業研修@里山

○ANAファシリティーズ、そごう広島店、 賀茂地方森林組合との連携

- ・企業の森と連携して里山体験
- ・キャンプを通じた企業研修
- ・ワーケーションの提案

福富地域の他の里山への活動拡大

○『環保協の森』(クロボヤ峡)との連携

- ・地域の里山整備のお手伝い
- ・ドローンを活用した里山診断

レンタル里山

(大人の遊び場・家族の遊び場)

○里山の貸し出しで里山の利用を拡大

- ・薪集めの場所
- ・原木栽培
- ・プライベートキャンプ場

『ツリーハウス』を核に 各種イベント実施

○近大谷川研究室との連携

- ・ツリーハウスを育てる活動
- ・アートイベントなど

3. 福富みらいベース 旧竹仁小学校改修プロジェクト

生活価値創出拠点：福富みらいベース

現代生活に見合った形で里山の価値をフル活用する拠点



福富の

豊かな

自然

× テクノロジー



里山の新たな価値発掘⇒新たなつながり・学びを生み出す場所

「こども×新しい学び」

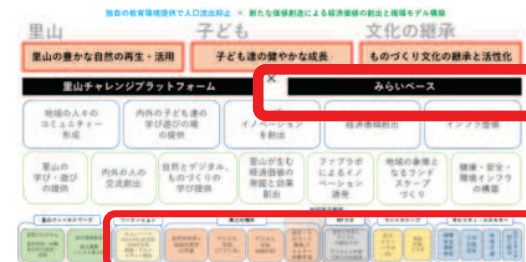
学校で学ぶ・学んだことをすこし先へひろげる

「自然×デジタル」

里山チャレンジプラットフォームで維持発掘する自然とデジタルを掛け合わせて新たな価値を生み出す

「ひと×ひと、わざ×わざ」

地域のひと、訪問したひと同士の
様々なコミュニケーションが生まれる
独自の技をもったひととそれを活かしたいひとが出会う



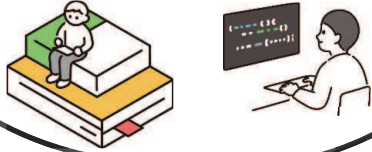
× 福富の多彩なひと



自然とひとと新たな発想がつながり、
福富の**みらい**をよりゆたかに

第三の学びの場

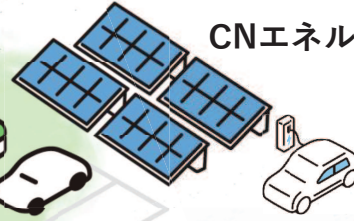
自然・歴史学習 デジタル学習



コワーキング・オフィス
ワーケーション



CNエネルギー



旧竹仁小学校

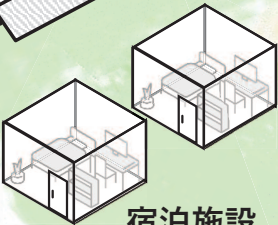
ファブラボ



送迎システム



宿泊施設
(コンテナハウス)



健康安全運転教室

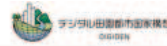


コミュニティ



デジタル田園都市国家構想交付金の採択とスケジュール

デジタル田園都市国家構想交付金の概要



▶ デジタル田園都市国家構想の実現による地方の社会課題解決・魅力向上の取組を加速化・深化する観点から、「デジタル田園都市国家構想交付金」により、各地方公共団体の意欲的な取組を支援。



出所：内閣官房・内閣府デジタル田園都市国家構想交付金制度概要 [denekohukin_2024_gaiyou.pdf](#)

広島県東広島市（R6当初）

まちづくり分野

～廃校を活用し、生活価値創出拠点を整備～

廃校を活用し、コミュニティスペースやテナントオフィス・コワーキングスペース、学び、宿泊等の機能を持たせた拠点「福富みらいベース」を整備。

拠点に集う人や企業の活動を通じ、地域内外の交流促進・魅力発信等を図り、交流・関係・移住人口の増加につなげ、持続可能な地域づくりを目指す。



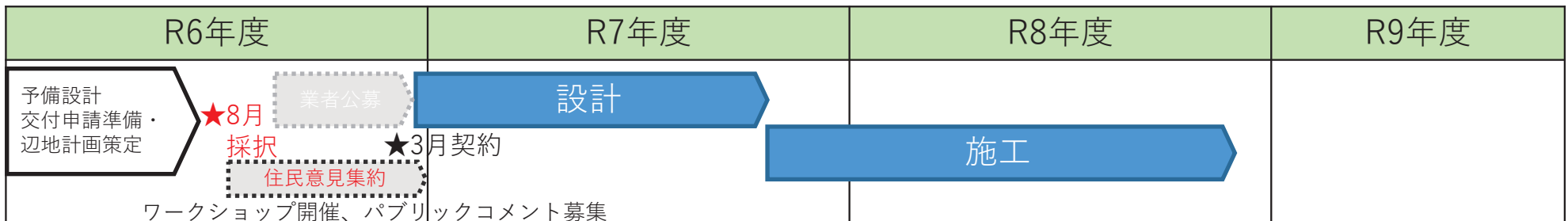
※広島県東広島市の事業概要資料より抜粋

（事業名：生活価値創出拠点「福富みらいベース」の整備活用、事業年度：R6～R8、交付対象事業費：6.1億円）

- ✓ 総事業費約6.1億円に対し、デジタル田園都市国家構想交付金・地方創生拠点整備タイプ採択。地方債も併用。
- ✓ 設計業者入札を実施し、3月契約。詳細設計に着手。

出所：内閣官房・内閣府デジタル田園都市国家構想交付金（令和6年度第2回）採択結果について（R6.8.2） [saitaku_r6_2.pdf](#)

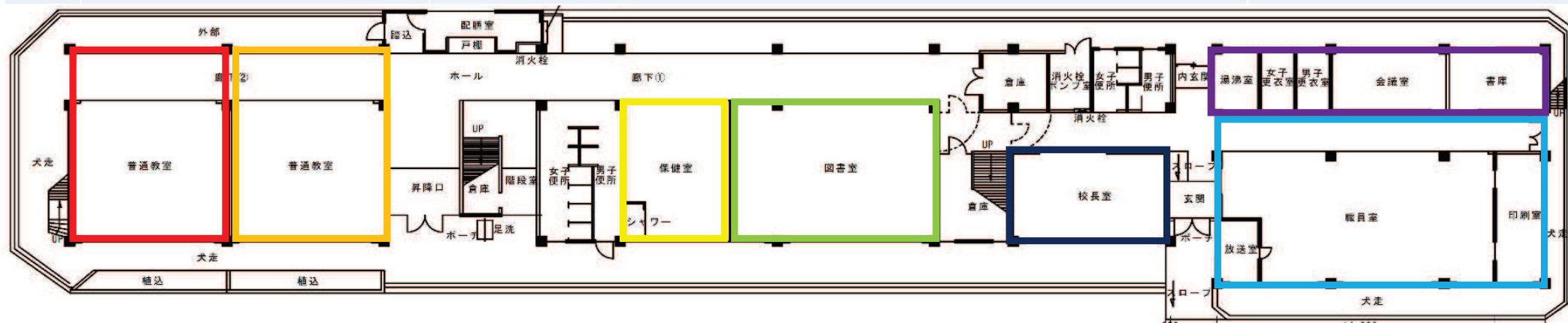
○スケジュール



旧校舎改修レイアウト

○ 1階部分

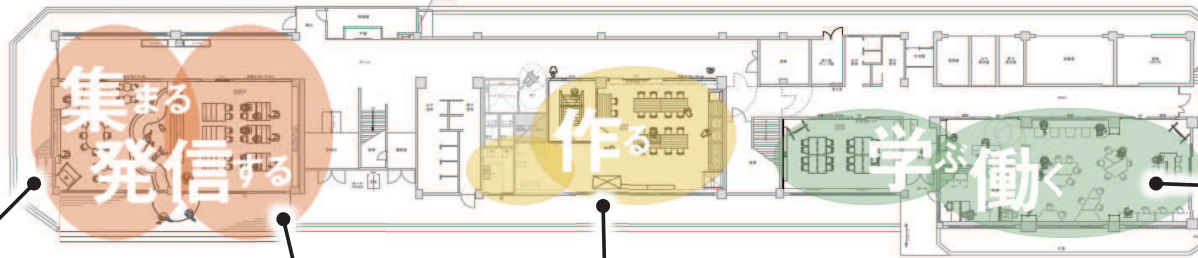
	旧部屋名	用途	備考
1	普通教室	コミュニティスペース	ウッドデッキ、オーニングテントを設置
2	普通教室	オープンテラス（グラウンド側）	
3	保健室	多目的トイレ、男女別シャワー室	
4	図書室	学びスペース（デジタル・エネルギー・ものづくり）	
5	校長室	会議スペース	
6	職員室等	コワーキングスペース、事務スペース	廊下側の壁を撤去
7	北側の小部屋	従来の用途として使用（更衣室や会議室等として）	
8	その他	トイレは大人も子供も使いやすいように	



福富みらいベース方向性・イメージ

コワーキング&ワーケーション

1階部分



みんなの工房 (ファブラボ)

デジタル工具等を常設子供も大人も自由に
デジタルモノづくりができる拠点



第三の学びの場

福富ならではの
子ども達の可能性を育てる場所

里山フィールドワーク基地



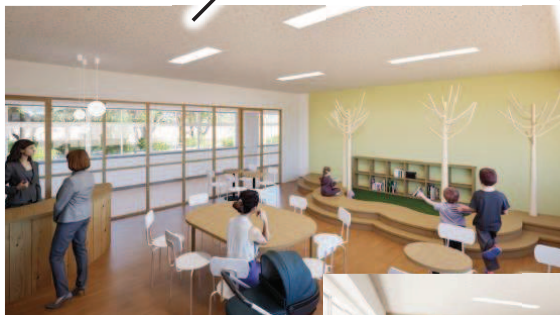
① 自由な発想を形にできる場
福富みらいベースには、モノづくりスペースです。様々な道具が揃っており、レーザーカッターや3Dプリンターなどのデジタル加工機も完備しています。子供も大人も自由に手を動かして何かを作ってみることも、創作活動ができる場です。

② 昔からある技術にふれる
デジタル機器が中心である「造」だけでなく、伝統的な技術や職人の技にもふれる機会があります。例えば、木工や陶芸など、昔ながらの技術に触れることができます。また、地域の伝統工芸品を学ぶこともできます。

③ 空間の共有と整理整頓
この空間には多くの人々が集まり、様々な活動が行われます。そのため、空間の共有と整理整頓が非常に重要です。利用者全員が、自分たちの活動が終わった後、空間を元の状態に戻すことが求められます。また、共用の道具や機材の管理も重要です。

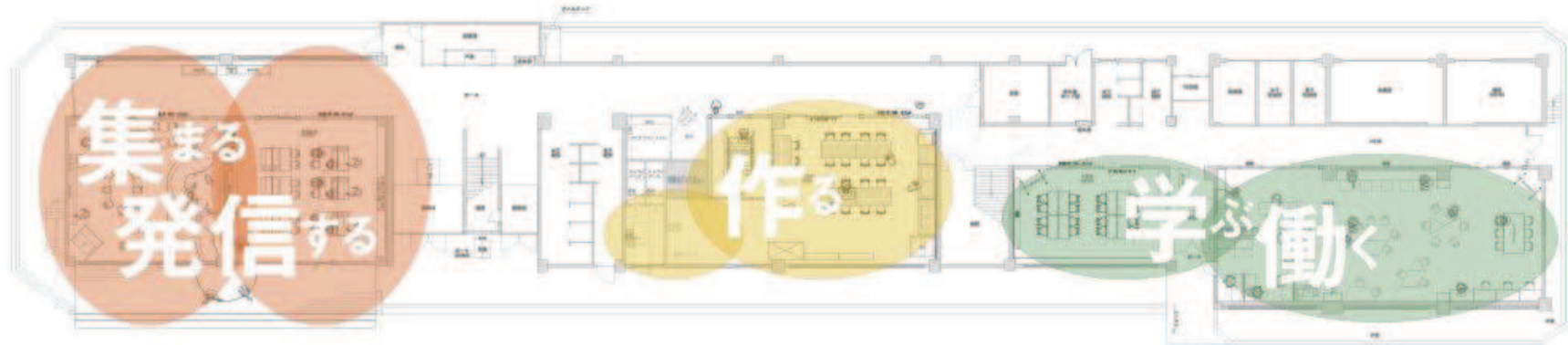
交流スペース ラウンジ・オープンテラス

工房で作ったモノを話のタネに交流を深める場所
・発信する場所
地域内外多世代交流



- 全3回のワークショップにて意見集約の上、(株)良品計画に完成イメージを作成いただき、ワークショップ参加住民に賛同いただくと共にパブリックコメント募集での反対意見もなかったことから方向性を決定。
- 設計業者、市営繕課と共に詳細設計を開始。

福富みらいベース：3つの役割



コミュニティスペース：

ふたつの教室を福富みらいベースにおけるコミュニティスペースとして、多世代交流に繋がるような場づくりをします。左側の教室は、木や山を感じられるようなキッズスペースを設け、小さなお子様連れでも保護者の方が一息つくことができるような場に、右側の教室は、自由に使えるスペースでありながら、みらいの里山プロジェクトから発信するモノやコトに触れて、学び知る場としての活用を考えています。

☑ ポイント

- ① 構造上、ふたつの教室をひとつにするのは叶いませんが、キッズスペースのデザインが、屋外のデッキをまたいで隣の教室へ続いていくことでふたつの空間のつながりを感じてもらえるような構成にしています。
- ② 内装の仕上げや家具の材料には自然素材を積極的に取り入れます。実際に触れるテーブルや本棚に木を使い、この場で過ごす中で木の質感にふれてもらいたいと思っています。
- ③ 発信する場として活用する右側の部屋は、教室の雰囲気そのままを残し、懐かしさのある空間にします。黒板には「発信したいこと」を描きこんだり、棚にはものづくりスペースで作ったものを展示したりと、既存のものも積極的に活用します。



ものづくりスペース：

ものづくり・こどづくりの拠点として、福富みらいベースでメインになる場所です。広々と使える作業台はもちろん、CNCルーターや3Dプリンターなどの製作機械、水槽や攪拌機といった実験装置などを設置し、こどもから大人まで誰でもものづくりができる場を目指します。

☑ ポイント

- ① 作業台はキャスター付で、使う場面によって移動できるものを考えています。台を動かし、囲み、みんなで作業ができるイメージです。使った後はまた所定の位置に戻し、作業場の整理・清掃もしやすい環境にします。
- ② 「あるものを活かす」の観点から、図書室で使われていた書棚を工作室の収納棚として流用したいと考えています。当時の小学校の気配を残した懐かしさもある空間にします。



オフィススペース/ワーキングエリア：

小学校の職員室として使われていた部屋は、福富みらいベースを運営する方々が駐在するオフィス兼誰でも気軽に利用できるワーキングスペースになる計画です。ベンチやブース席、複数人で使えるテーブル席、組み合わせによって形状を変えられる席など、作業の内容やその日の気分によってフレキシブルに使い方や居場所を変えられるようなゆとりをもたせています。

☑ ポイント

- ① 受付カウンターやデスクの天板には木を選定しています。木のあたたかみや、使っていくことで現れる経年変化を感じてもらいながら、自然とのつながりを学ぶ場になってほしいと思っています。
- ② 書籍や文房具を管理する棚を設置しています。このエリアの中で自由に使える「共有できるもの」を置いておき、「借りたら返す」「使った後は元の場所に戻す」といった行動を通して、空間の整理整頓が自然におこなえ、利用する方々が気持ちよく利用できる環境を整えます。



オフィススペース／ワーキングエリア



① 誰かの顔がすぐに見えるように
受付カウンターを入口のすぐ前に設置しています。
カウンターは一番最初に目に入るものなので、地域の木を使ったり、
漆をたっぷり使ったアイコニックなものするのも良いかもしれません。



② ゆるく仕切られた執務室
駐在のみなさんが使う執務室は、ワーキングスペースと同じ部屋に
ありますが、壁で塞ぐことはせず、周辺とのつながりも保ったまま列柱に
よって視線と空間をゆるく仕切ることによって無理なくお仕事ができるような
環境にしています。



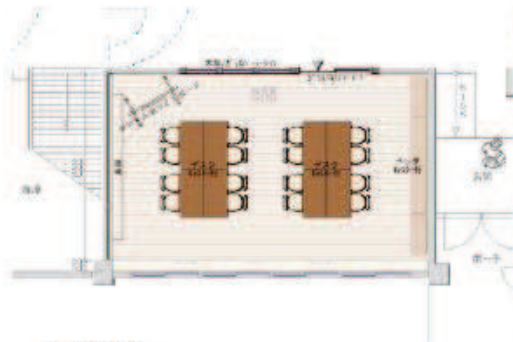
③ 働く場・学ぶ場の多様性
メインのテーブルはキャスター付きで自由に動かせます。グルー
プでディスカッションするときは向かい合わせで大きなテーブル
として使ったり、1台だけを壁に寄せて使うなどフレキシブルに
使うことができます。
他にベンチ席や一人用の席もあるので、その時の気分によって好
きな場所を選ぶことができます。場所を変えたり椅子を変えたりす
ることで気分転換につながったり、目標が変わることで新しい考
え方やコミュニケーションのうみだずきっかけにもなります。



④ 木のできた家具を使う
天板や棚板には、自然素材である木を積極的に採用したいと考えています。木が持つあたたかい質感
や木目のゆらぎ、経年による変化を感じてもらうこと、定期的なメンテナンスを自らでおこなうなど、
実際に手で触れてもらうことで愛着を持って使ってほしいです。木は地域の材を選定すると、こ
の土地ならではの特色をこの空間に取り入れることができます。



会議室

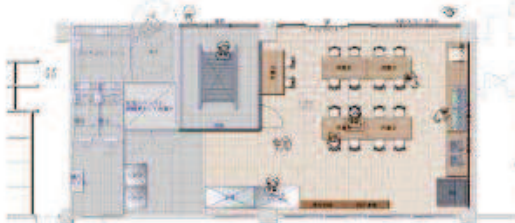


■ 会議室

一度に 20 名程度が利用可能な会議室です。ホワイトボードやモニターを設置し、会議はもちろん、セミナーやワークショップの開催にも使える空間にします。この部屋の家具も他と同様に、移動させやすい・収納しやすいものを選定します。



ものづくりスペース



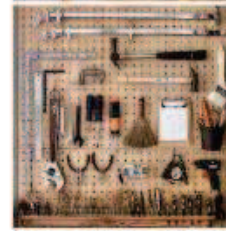
① 自由な発想を形にできる場

福富みらいベースの中心となる、ものづくりスペースです。昔ながらの工具に加えて、レーザーカッターやCNCルーター、3Dプリンターなどのデジタル製作機材を揃えます。子供も大人も自由に手を動かして何かを作ってみたくなるような、創作活動ができる場です。



② 昔からある技術にふれる

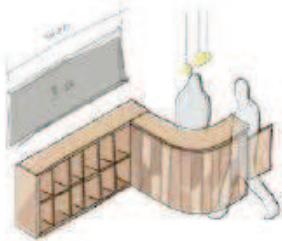
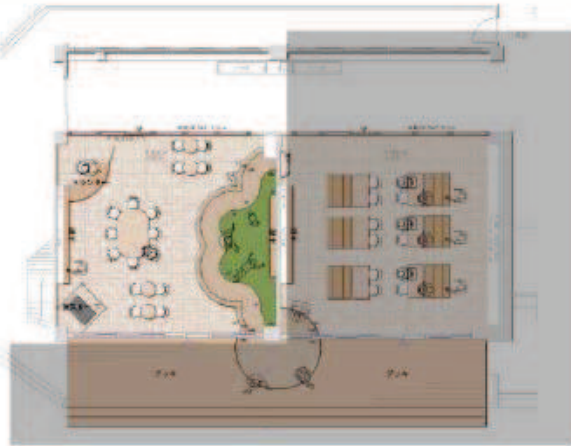
デジタル機材が存在していなかった「昔」はどのようにものづくりがおこなわれていたのか。当時から続く古き良き技術や今でも役に立つ知恵を、先人から学ぶ場としても使えるように、機材を置かない作業台も設置しています。幅広い用途で様々な活動が行われ、人々がここで知識や技術を共有していく場になっていきます。



③ 空間の共有と整理整頓

この部屋にはたくさんの「共有するもの」が置かれます。機材や工具、作業台などはみなさんと共有して使うものです。自由に使えるとはいえ、使ったら返す、汚れたら掃除するなど、それぞれが互いに配慮しながらこの空間を気持ちよく使えど、活用の幅も広がっていくと考えます。何がどこにあるかわかりやすい収納の設えであったり、動かしやすい掃除しやすい作業台の仕様なども「共有」していくために整備していきたい要素です。

コミュニティスペース



① 常に誰かに会える場所

コワーキングスペースと同様に、受付カウンターは入口のすぐ前に設置しています。用事がなくても、ふいに立ち寄ったとき、誰かがいる安心感を少しでも早く感じてもらえるように廊下からでも目につきやすい位置に計画しました。また、カウンターからは室内を見渡せる向きにしています。小さな子どもが来ていても目が届き、かつ、お互いの存在が認識しやすいので、何気ない会話が生まれやすい空間になります。

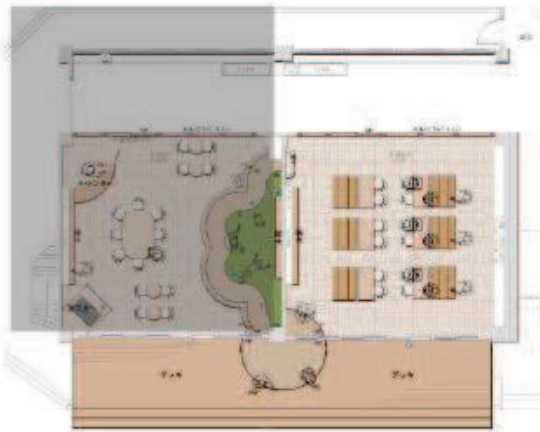


② 自然を感じられる空間

山を想起させる高低差や、実際に触れられる木材のインスタレーションなど、自然を身近に感じてもらえるようなデザインを計画しています。右のイメージ図に落とし込んでいる磨丸太（みがきまるた）は、皮を剥いて磨き上げた木材のことで、表面がなめらかで手触り良い材料です。耐久性が高く、何世代にもわたって使うことができ、経年で色が艶色に変わっていきます。そういったものの変化にも触れてもらえるような、あたたかみのある空間を目指します。



コミュニティスペース



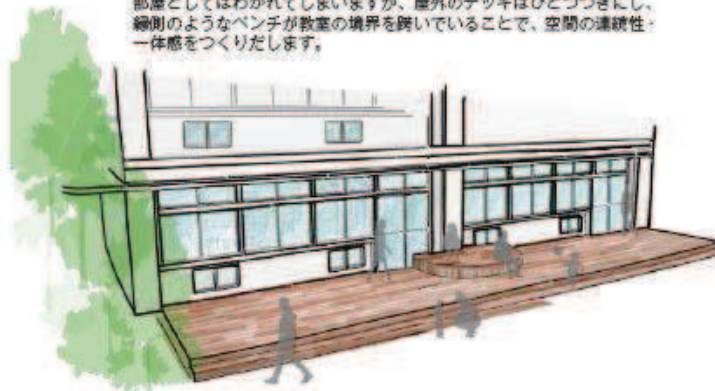
① 発信する場

福富みらいベースで学んだことや、ものづくりスペースで作ったものを展示・発信する場所になる計画です。ベンチとして使うことも作品を展示することもできる什器を置き、何気ない会話はもちろん、作品にまつわるコミュニケーションがうまれることを期待しています。



② 開かれたコミュニティスペース

隣り合うふたつの教室はどちらもコミュニティスペースとして使用しますが、間仕切り壁は撤去できないことがわかりました。部屋としてはわかれてしましますが、層外のデッキはひとつづきにし、細則のようなベンチが教室の境界を跨いでいることで、空間の連続性・一体感をつくりだします。



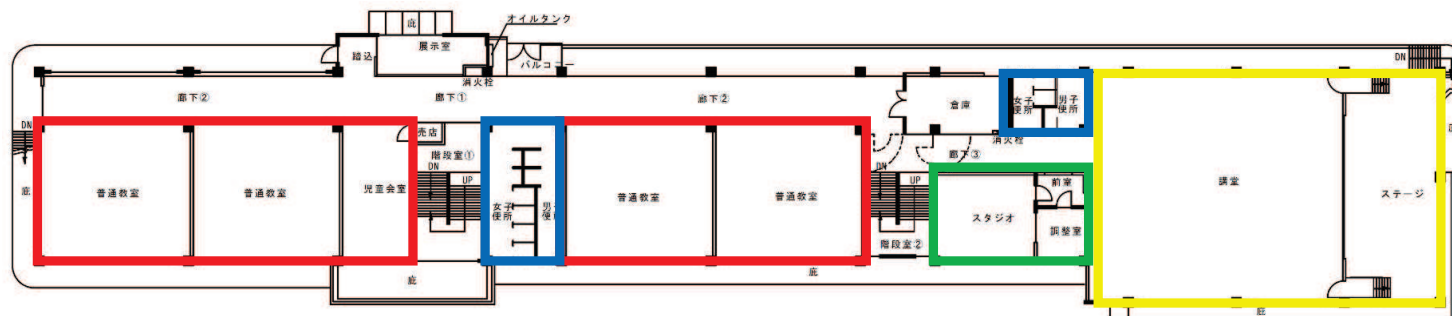
③ あるものを活かす

もともと教室にあった黒板や棚はそのままの姿で残っています。黒板に学んだことを書き込んでみたり、棚は収納や本棚として使うこともできますが、作品を展示し発信するための什器としても使います。小学校の懐かしい雰囲気を残した、親しみある空間になります。

旧校舎改修レイアウト

○ 2階部分

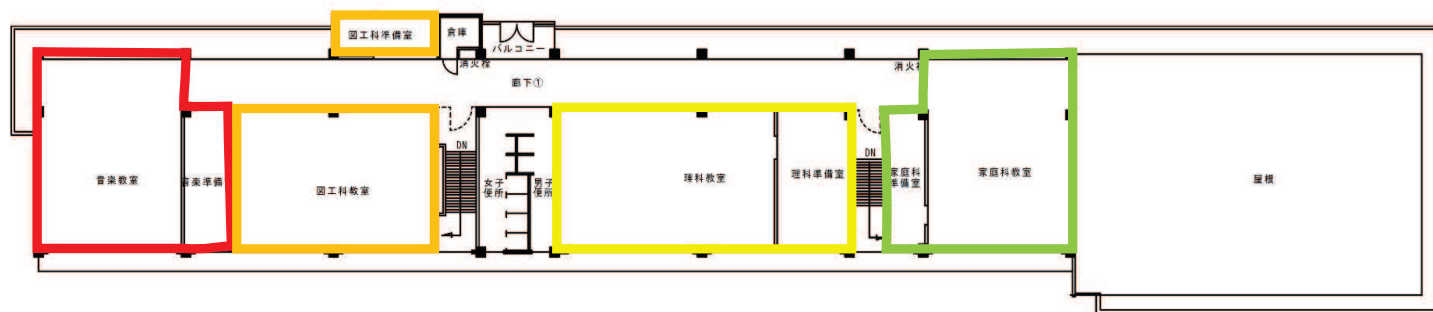
用途	
1	テナントオフィス
2	会議スペース
3	多世代交流健康増進スペース
4	トイレ



○ 3階部分

用途	
1	スタジオ・シアター
2	シェア工房
3	シェア工房
4	共同加工所

- ・ 既存の機能の復元（電気・水は使用できる状態に）
- ・ 音楽室のカビのクリーニング等を行う
- ・ 空調は整備しない（冬季はストーブで対応）
- ・ サッシ、照明はそのまま





生活デザイン・工学研究所



ホームページ



LINE

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS